

～救える命を救うために～

救急車の適正利用にご協力をお願いします

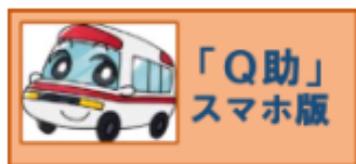
岳北消防本部管内の令和元年中の救急出場件数は2,006件、搬送人員は1,951人でした。そのうち約33%の方が入院の必要のない「軽症」の方でした。

突然の重い病気やひどいケガをした人に、救命処置を行い適切な医療機関に搬送するのが救急隊の役目です。救急車や救急隊員の数は限られていますので、症状の軽い方が安易な救急要請をすることは望ましくありません。

救急車を呼ぶか判断に迷った場合は下記のサービスをご利用ください。

～症状から、どうしたらよいか迷ったときは～

- 全国救急受信ガイド（愛称「Q助」） をご利用ください。



全国版救急受信アプリ

iOS用

Android用

スマートフォン用アプリダウンロード（Webサイトへ移動）

～休日や夜間で緊急医が分からないときは～

- ながの医療情報 Net
<http://www.qq.pref.nagano.lg.jp/> をご利用ください。



～休日や夜間のこどもの症状の対処に迷ったときは～

- こども医療でんわ相談 #8000 をご利用ください。

ただし、けが人や病人の様子、事故の状況などから急いで病院へ連れて行ったほうが良いと思ったときには、迷わず119番通報をしてください。

救急車を呼ぶ前に考えよう



岳北消防本部

重大な病気やけがの可能性がります!

おとな

顔

- 顔半分が動きにくい、または、しびれる
- ニッコリ笑うと口や顔の片方がゆがむ
- ろれつがまわりにくく、うまく話せない
- 見える範囲が狭くなる
- 突然、周りが二重に見える
- 顔色が明らかに悪い

頭

- 突然の激しい頭痛
- 突然の高熱
- 支えなしで立てないぐらい急にふらつく

胸や背中

- 突然の激痛
- 急な息切れ、呼吸困難
- 胸の中央が締め付けられるような、または圧迫されるような痛みが2～3分続く
- 痛む場所が移動する

おなか

- 突然の激しい腹痛
- 激しい腹痛が持続する
- 血を吐く
- 便に血が混ざるまたは、真っ黒い便が出る

手・足

- 突然のしびれ
- 突然、片方の腕や足に力が入らなくなる



意識の障害

- 意識がない (返事がない) またはおかしい (もうろうとしている)
- ぐったりしている

吐き気

- 冷や汗を伴うような強い吐き気

けいれん

- けいれんが止まらない
- けいれんが止まっても、意識がもどらない

飲み込み

- 物をのどにつまらせて、呼吸が苦しい、意識がない

けが・やけど

- 大量の出血を伴うけが
- 広範囲のやけど

事故

- 交通事故にあった (強い衝撃を受けた)
- 水におぼれている
- 高いところから落ちた




◎その他、いつもと違う場合、様子がおかしい場合